

## 第5回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和6年2月26日（月） 14:00～16:00		
場 所	大田市民会館 中ホール		
出席者	委 員：13名／17名 （欠席委員：岩倉善光委員、松田哲也委員、原直幸委員、中尾祥子委員） 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、 渡邊総務課長補佐、清水学校施設係長、清水学校再編係副主任 川津学校教育課長、俵学校教育課主査 山根学事・魅力化推進室長、矢田山村留学センター長		
傍聴人	23名	報道機関	2社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>1. 開会（進行：渡邊課長補佐）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の半数以上の出席（4名欠席）を確認後、本委員会の成立を報告              （検討委員会設置要綱第6条第2項による）</li> </ul> <p>2. 加藤委員長挨拶</p> <p>本年度も残り1カ月あまりとなり、来年度に向けた準備など、慌ただしさが増す中、第5回の検討委員会にご出席いただき感謝申し上げます。本日は、前回ご意見・ご質問のあった、大田市の学校における学びについての教育委員会のイメージ、また、実施計画の見直し行程について説明を受けた後、前回の議事でもあった「三瓶地区の学校のあり方について」、「第三中学校について」の2点について検討を進めていきたい。</p> <p>この検討委員会も5回目となり、将来を見据えた再編案について議論を進めていかなければならないと思っている。</p> <p>3. 第4回会議の議事録の確認（進行：加藤委員長）          修正指摘2箇所</p> <p>4. 説明事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）大田市の学校における学びのイメージについて（説明：縄課長）</li> <li>（2）学校のあり方に関する実施計画の見直し行程について（説明：縄課長）</li> </ul> <p>5. 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）三瓶地区の学校のあり方について（説明：渡邊課長補佐、縄課長）</li> </ul>			
議事に係る質疑応答			
発言者	内 容		
委員	<p>2点教えていただきたい。三瓶は地域と連携した非常にユニークな教育が実施されていると思うが、実際に素案3で大田小学校或いは第一中学校に統合した場合、そのような教育は地域の特性として活かされていくのか、もしくは継続して実施できないような状況になるのか。地域的な特徴があるため、例えば特認校という形で、自由選択で選べ残していくような、大田としての特徴を出されるのかというのが1点目。</p> <p>2点目は、志学地区は特に積雪時の通学に時間がかかるということから、対面の教育を基本とされると思うが、そのようなとき、ICTの技術を使って地域からネットを通</p>		

	<p>じて教育を受ける環境を充実させていくような形にされるのか。通学の困難な子どもたちの寮を設けるような形で対面を実現するのか。通学が難しい場合に、どのように考えていくのか教育委員会としての方向性を教えていただきたい。</p>
森部長	<p>三瓶地域で特徴的という、山村留学である。長期留学をしている児童・生徒は北三瓶小・中学校に通っている。山村留学は、山村留学センターで共同生活をしながら、地域の農家に宿泊する期間もあり、その中で自然体験を実施していくというもの。</p> <p>この山村留学事業は大田市から委託をしている“育てる会”という団体があり、先般、仮に北三瓶小・中学校が大田小学校或いは第一中学校へ統合となった場合についても率直に交わしたところである。もしそうなったとしても、山村留学の趣旨としては変わらず、学校が変わってもやることは同じという見方もあった。ただ、現在のように山村留学をしながら北三瓶小・中学校に通うことを100とすると、恐らく何割かは本来の趣旨と離れていくのではないかと思う。大田市の特徴という、特に自然体験であろうと思うが、これは三瓶地域に限ったことではなく、他の学校でも自然体験等は行っているため、その部分はあまり影響がないと思っているが、山村留学に関してはそのような視点は考えていかなければならないと思っている。</p> <p>次に通学時間である。北三瓶地区から大田小学校や第一中学校に行くのは30分程度だが、志学地区からはもう少し時間を要する。仮に統合となり志学地区からどこかの地区へ通学するときは、いずれにしても市内では時間がかかるとしており、北三瓶地区もだが、積雪の関係で冬期どうするかは考えていけないといけない。基本的には対面であるが、冬期の積雪時のことまでは検討を深めていない。</p> <p>これからの時代に対面だけを行っていくのも恐らく困難であり、最新技術を使えば、オンラインで授業を受けるハイブリット型は可能だと思っている。現在メディア社会であり、子どもはメディアを通じて様々なものを学んでいるが、それに偏るのも良くないと思っている。しかし、いずれにしても最新の技術というのは最大限に活用しながら事業展開、或いは学校生活の中で取り組んでいけないといけないと思っている。</p>
縄課長	<p>宿舎の関係も質問の中あったが、こちらについては今のところ検討はしていない。先程部長も申した通り、最新の技術を使いながら、可能な組み立ても今後検討していくことになると思っている。</p>
委員	<p>資料1のように小・中学校における学びのイメージ図を作っていた中で、様々な人たちと協働して学べる環境の確保の中に、ICTの活用というところがある。基本的に小・中学校のICT環境は、これらに対応できるような設備でもなければ、教職員の技術力などが十分ではないのが現状だと思う。今後ハイブリッド型や国際的な多様な学びを行う上では、それなりの施設であることや、そういった技術や教育が行える体制作りが重要になってくる。今はどちらかという、GIGAスクール構想でタブレットが配布され、それを使って教育をやってみようというところなので活用にはなっていない。このような人口減少の中でも、全ての子どもたちには最低限の教育を受ける環境がある。さらにそれ以上に、地域の特性などを活かして他の地域よりも魅力のある教育を行うときに、このような技術をうまく使いながら、コミュニケーション力や人間力を高め、学び続けようとする意識を活かせるような教育委員会の準備や、地域として考えていくということをこの中に織り込んでいただきたい。どういうふうこれを実現しようとするのか、ぜひ検討する必要があると思う。</p>
森部長	<p>時代は変わっていくので、その都度、或いはその先を見据えた学びの環境というのは常に考えていけないといけないと思っている。一方で、我々が一番懸念をしているのは、近年の三瓶地域における出生数である。同級生が2人中、オンラインで学べばいいの</p>

	<p>かというところを考えていかないといけない。その時代がやってくるのは5年後、6年後の話になるが、出生数0人という年がこれから頻繁になってくると、それでも学校という施設を残していくかどうかということも、この場で議論をいただければと思う。</p> <p>学校を残したいということもあるが、当事者になったとき1人で学ぶ環境というのがいいのか悪いのかというのはよく考えなければならない。</p>
委員	<p>北三瓶小学校・志学小学校・大田小学校の統合について、学校規模が記載されている部分に『クラス替えが可能な望ましい学校規模』とあるが、『望ましい』と記載された意味をお聞きしたい。</p>
森部長	<p>冒頭縄課長が説明したとおり、まずは教育基本法や、学習指導要領で身につけさせた力、或いは資質というものをどういう環境であればいいか考えたとき、小学校については、文科省が示した標準学級数である12～18学級は当然何年かに1度はクラス替えがあつてしかるべきというのが国の考えだと思っている。それを捉えてクラス替えができる環境が望ましいという表現にさせていただいた。</p>
委員	<p>国の考えはそういうことで理解するが、北三瓶小・中学校と志学小・中学校の統合は望ましくないのだろうか。</p>
森部長	<p>我々の中でそれも一つの考え方とするということでは書いている。</p>
縄課長	<p>これまでの議論でもそうであるが、国が示している標準学級数が12～18学級となっている。一方で、小規模校が否定されるのかという意見をいただく中で、やはり小規模校にも良さはあるということであり、どちらがいいかということではないが、そのあたりのメリット・デメリット或いは良い点・悪い点も踏まえて、皆さんと議論をさせていただきたい。その中から、例えば三瓶地域には学校があるべきという意見も、大きな統合をしていくべきという意見も一つの方法であるため、そういったところのお考えをいただきたいということである。</p> <p>言葉の使い方が至らなかった点もあるが、そのようなところを議論させていただきたく、その中で素案1と2では三瓶地域に1校統合校を設けるということ、一方素案3では大きな統合を見据えて考えていくということを示させていただいた。</p>
委員	<p>言葉の問題と言っても文章に残る。これが望ましいならば、一方の望ましくない規模が否定される。クラス替えが可能な学校にあえて『望ましい』をつければ、これから我々が議論していくときに、こちらが望ましいと考えられ、議論の幅が狭められる。多様な学校について今まで議論してきたが、その地域の実態に合った単なる数合わせの統合ではなく、教育をどういうふうにして新しい学校の中で作っていくのかを想像しようということ議論してスタートしたと思う。しかし、いきなり『望ましい』と規定されたら、望ましい方向に議論するのかとなってしまいうだろう。</p>
縄課長	<p>『望ましい』ということは文科省が示す標準学級数から運用し、クラス替えができることが望ましいという表現であったため、この資料としては『望ましい』を削除させていただきたい。大変申し訳ございませんでした。</p>
委員長	<p>ここでは資料3 北三瓶小学校・志学小学校・大田小学校統合についての表、学校規模部分の上から三段目について、『望ましい』という言葉は削除して話を進めるということを確認したい。</p> <p>先程から12～18学級という数が出ているが、学校教育法施行規則の中では全学年で12～18学級が標準学級数という形で定められている。そういう話であったところだが、この資料の中では『望ましい』という言葉は削除して今後検討を進めていくということで、確認したいと思う。</p> <p>それでは質問がなければ、資料3を踏まえて委員の皆さまのお考えを聞かせてもらい</p>

	<p>たい。いわゆる小規模校のメリット・デメリットはどう考えるのか。大規模校はどうなのか。北三瓶小・中学校と志学小・中学校の統合については、大田市内に7ブロックある中で三瓶ブロックにも学校を残そうというのが基本的な考えである。委員の皆さまはいかが考えるか。</p>
委員	<p>以前私は小規模校に勤めていた経験があるため、良さはとても理解しているつもりである。ただ、子どもたちが少なくなってきた、多様な関係がだんだん少なくなるということは、子どもたちにとってもメリットが少なくなるとは思っている。</p> <p>そうは言っても、大田小学校に北三瓶小学校・志学小学校を一緒にするというのは、通学のことを考えるとあまりにも無理があるように感じる。資料には通学時間40分や1時間と書いてある。学校からであればそうかもしれないが、北三瓶地区であれば佐津目の方から通学する子どもがいれば、それは大田小学校に通うのは難しいと思う。</p> <p>志学小学校の保護者の方と話す機会があったが、もし自分たちが大田小学校または第一中学校に行くとなれば、自治体は違うが、美郷町の邑智小学校、邑智中学校が10分で行けるといような話も聞く。やはり通学というのは、保護者にとっても児童・生徒にとっても大きな問題だと思うので、私は北三瓶小学校・志学小学校が一つの学校になってでも、三瓶地域に残したほうが良いのではないかと思う。</p> <p>ただ、子どもたちの数が少ない。例えば、大田小学校には以前、野城分校という分校があった。1年生から3年生までは野城分校に通い、4年生から大田小学校に行く。分校とまではいかないが、月に1回大田小学校と交流するなどの方法をとって、多様な人間関係ができるような環境を整えるということで、三瓶地域に学校を残すという考えがよいのではないかと思う。</p>
委員長	<p>自治体は違うものの、志学地区からは美郷町の方が距離的には近いという発言があった。以前教育長からもその話が出た記憶が私はあるが、このことについて追加の話があるか。</p>
武田教育長	<p>既に観光産業については三瓶山を中心にして連携を図ろうという動きがある。一方、教育としてあるのだろうか。三瓶山という教育資源をそのまわりの1市2町で活用していくという発想ができないかと思い、飯南町・美郷町の教育長にその提案をして、いくつかの試みを進めつつある。</p> <p>そういう考え方をベースにすると、先程発言があったように、そのまま美郷町へ行き共に学ぶということがあっても、将来を見据えた場合は非常に実現可能なことではないかと思って話したと思う。</p>
委員	<p>現在の議論だと、その地域に学校を残して、基本的にそこで学ぶという形だが、大田全体で考えると、こういう規模の学校があり、そこにこういう特徴があるから選択できるというような、子どもたちや保護者が選択できるようにすると、いろんな考え方が整理できると思う。その選択したときに、通学の問題も出てくるので、どういうふうに新しい技術を使いながら交流や学びができるのかと考えていくといいのではないか。</p> <p>三瓶や大森では非常にユニークな教育がされているので、大田全体としてクラス替えができるような規模の学校と、大田の非常に特徴的な教育を進める学校が設置され、校区をなくし、自分がどういう環境で学びたいかというのを選択できるのも一つの考え方なのではないか。あまりにも規模が小さくなり、地域ごとに学校を設置することが難しくなってきたとき、大田全体で多様な選択ができるというのも一つの魅力だと思う。そうすれば、大田だけではなくて他の市町からこういう教育を受けたいというふうにも選んでもらえるような、そういう教育のまちとして特徴を出していくことができる。今までであれば、このように地域ごとにまとめようとするが、あまりにも子どもの数が</p>

	減ってくるとその考えはできない。今後どのように小学校や中学校を考えていくかを検討していくべきだと思う。
武田教育長	<p>先程の発言について、当初から教育委員会はそのビジョンを持って考えており、議会も含めていろんな場で説明しているのは、我がとこの地域の学校ではなく、大田市全体を一つの学校・学びの場と見立てて、そこにどういう選択肢を作っていくかということ。さらに校区を緩めて、誰もがそれぞれ違った選択肢が持てるようにと言いつけているため、ご意見は本当に同感する限りである。</p> <p>この再編がここまで来たのは、やはり地域にこだわり続けたということも一つあると思う。それは学校が地域にとって非常に大事な拠点があったからではないか。しかし、このまま本当に維持できるのかということや、これからの教育をどういうふうにも子どもたちに提供していくかを考えたときには、もっと広いエリアで教育というものを考えていかなければいけないと思っている。</p> <p>しかしながら、地域の場に出かけて話をすると、その地域の学校という概念がすごく強い。その思いはもちろん理解しており、その地域力に頼ってきた大田市の教育の現実もあったと思う。したがって、素案では大人の選択肢として地域性を残しつつ、一方で、将来を見据えたところでは統合していくという案を、複数提案させていただいたということである。</p>
委員長	<p>学校選択が可能なる形、そのためには学校の特色づくりというのが大前提であり、特に小規模特認校や特例校もまた一つの考え方だと思うが、学校の特色づくりをしながら学校を選べるような学校選択ということも考えられるのではないかという話が出た。</p> <p>その他いかがか。</p>
委員	<p>先程の発言を聞いても自分の中ではどうなのかと思うところがあるため、同じようなことを聞くが、追加資料1で素案ごとにイメージを記載されているが、その中の項目の部分がすごく気になる。様々な人たちと協働して学べるのはこの学校、個々に応じて学べるのはこの学校と記載されているが、いずれも学校の学習指導要領の具現化のために、個別最適な学びに努めていかないといけないが、これが視点になるのかと思った。こう統合すれば共同して学べるという学校づくりに向かっていく、こう統合すれば個々に応じて学べる学校づくりになっていく、という視点になると思っている。</p> <p>そのため、北三瓶小・中学校や志学小・中学校は個々に応じて学べるという特色が出せるという視点に立てば、やはり北三瓶小・中学校と志学小・中学校で一つの学校になっていくことがいいのではないかと思う。しかし、この視点もありながらやはり人数も考えなければいけないので、いろんな視点があるのは当然だが、どの視点で語っていいのかがわかりにくい。</p> <p>ただ、特色ある学校を作っていく、子どもたちが選んでいけるという先程の発言を聞くと、個々の学校が資源を活かして学校が作れることがいいのではないかと思う。そう考えると、北三瓶小・中学校、志学小・中学校というところが、そういうことがしやすいのかと思うが、留意点の部分に『今後更なる再編統合が行われる可能性がある』と記載されているので、この部分は地域の方が悩まれるだろうと思う。</p> <p>質問だが、どう統合した場合スクールバスが出るのだろうか。</p>
縄課長	<p>まずスクールバスの件について回答する。基本的に通学手段は統合が決まれば統合準備協議会の中で話し合いをしていくが、現実的に見ると、バスを使わなければ通学ができないと思っているので、我々とするのを念頭に置いて考えていくことになると思っている。</p> <p>例えば路線バスの維持という側面で考えたとき、中学生や小学校高学年であれば路線</p>

	<p>バスの活用も可能になってくるかもしれない。そうしたところも検討していかなければいけないと思っている。</p>
委員	<p>スクールバスや通学がどうなるのかイメージが湧かないと感じた。このあと第三中学校の話もあるが、第三中学校区から第一中学校に就学することを決めた保護者は、3年間の送迎がどのようになるかというのが、負担にもなっており、心配な部分でもある。小学校6年間と中学校3年間、合わせて9年間の子どもの通学の安全を親御さん方ほどのように考えるのが気になっている部分である。</p> <p>また、コロナ禍により学校内で学習することが増えた。例えば大森小学校はこれまで近隣の高山小学校と一緒に共同で学習する時間をかなり多く授業でとっていた。直接会って交流をするという時間が削減されている中でも、オンラインで授業をすることもあり、子どもからもその授業がすごく良い時間だったということを知った。必ずしもクラスにたくさん友達がいて、学校にたくさん人数がいるのが幸せではないので、そういう視点で物事を見ていければいいと思っている。</p> <p>ただ、北三瓶小・中学校と志学小・中学校の今後の児童・生徒数を見ると、令和16年時点で小学校の児童数が0人となっており、もし自分の子どもが小学校5年生や6年生になって全校で1人となったとき、それでも地域の小学校に通わせたいかと考えると、いくら中学校に何人かいるからと言っても、小学校の中に友達がいない中で子どもを通わせるというのは、すごく悩むのではないかと考えていた。</p>
縄課長	<p>三瓶地域の学校では将来的に児童数が0人になる見込みがあるということが先程の発言内容であった。皆様にお渡しした推計の数値というのは、令和4年度の1年間で生まれた子どもが地域に何人いるのか、それが続いた場合どうなのかということを出している。そのため、将来的にはその地域で出生があるかもしれないが、現状の推計値で言うと令和16年度三瓶地域には児童が0人になるという推計を出したということであるので、そこはご理解いただきたい。</p>
委員	<p>先程の議論の中で学校選択制について話があったが、これは教育長の発言にもあったように、そういう方向が最初から出されていたということは改めて確認する。追加資料1に素案ごとの学校の特色づくりのイメージが記載してあるが、その項目に様々な人たちと協働して学べる、個々に応じて学べる、ふるさと・地域を学べる、とあるが、こういう特色の学校にするというのはここで議論をしたらどうか。</p> <p>これだけのことで『様々な人たちと協働して学べる学校作ろうと思うので、大田小学校・川合小学校・久屋小学校を再編します』と市民に向けて言っても、私はさっぱりわからない。特色のある学校をイメージして固めて、それに基づいて作っていくということになると思うが、どういう特色のある学校なのかということもここで議論せずに書いてあるだけであると、私もよくわからないが、市民はもっとわからないのではないか。</p>
委員長	<p>追加資料の項目に関わって、イメージ図のところから出てきている話だが、これについての審議、今までどういう形で出てきたかについて確認したいということだが、いかがか。</p>
縄課長	<p>資料1をもう一度ご覧いただきたい。これまでの検討委員会の中で、大田市教育委員会としてどのような学びのイメージを持っているのか示してほしいということが前回或いは前々回にあった。今回資料1で示した中で、小・中学校には教育委員会として大きく4つ、様々な人たちと協働して学べる、安全に安心して学べる、個々に応じて学べる、ふるさと・地域を学べる、といったイメージを持っているという話をさせていただいた。</p> <p>この資料1を補強する形で追加資料1を出した。さらに教育委員会のイメージを具体的に申し上げると、この4つのイメージは全ての学校に必要なことであるということは先</p>

	<p>程の資料でも説明した上で、その中で安全に安心して学べるということであると、五十猛小学校・鳥井小学校・大田小学校は校舎の劣化が激しいので、その中で統合し静間小学校にまずは移動するという、大田小学校については統合も見据えて整備をしていくということで確認をいただいた。</p> <p>その上で追加資料1に特色づくりとあるが、仮に素案の特色を際立たせて整理をすると、ここが中心となってくるということでお示しをしたものである。今日の話はこの4つを議論して決めるのではないということである。あくまで教育委員会のイメージである。</p>
加藤委員長	事務局の話聞いていかがか。
委員	安全に安心して学べるということについては必要に迫られているところであるので、これは理解できる。それ以外の様々な人たちと協働して学べる、個々に応じて学べる、ふるさと・地域を学べる、という学校の特色の芽になるような言葉が出ているが、この中身のイメージをどういうふう膨らましていくかということがない限り、これだけ出ていったら市民は全く理解できないと思う。選択できる特色ある学校づくりのために、一定の時間をかけて議論する必要があるのではないか。
委員長	先程の発言で出た項目の部分について、今日の教育委員会の説明を聞く前からいわゆる重点化する項目であるというふうに聞いていたところであるが、もう少しそれぞれの項目について具体的なものを考えながら検討しないといけないのではないかという話であると思うが、事務局いかがか。
武田教育長	<p>先程課長が申し上げたように、ここに挙げた4つの点はどの小・中学校であろうとこの使命は果たしてもらいたいものである。しかしながら、この度の話し合いにおいては、本日であれば三瓶地域のあり方、そして第三中学校のあり方、個別具体的な話に移っていきたいというふうに思っている。従って、特にこの4点はどの学校にも必要だが、例えば素案1で考えたことは、特に様々な人と協働して学べる環境を確保できるのはこういう学校の統合校で、具体的に言えばICTの活用をさらに進めていきたい、世界と繋がるような場をそこに取り入れていきたい、などと考えた。</p> <p>また、個々に学べる環境としては、今日の議事である三瓶地域や大森・高山は規模が小さくても丁寧に見て、他の学校と合同学習ができるのではないかと、そういうときは特認校になってもらう考えが持てるのではないかとというような形で、ここに区分をした。</p> <p>さらに言えば、それぞれの学校で果たせる使命・役割というのは、この点とこの点というような複数点を線で結べるような形にもなるかもしれないと思ったが、特にこの点は重点的という整理で、ここの項目を挙げさせていただいた。</p> <p>従って、今日はそのイメージを説明したが、ここを議論してほしいという会ではなく、教育委員会のイメージを受けて、三瓶地域や第三中学校がどうあったらいいかということについて意見をいただきたいと考えている。</p>
委員	<p>私は義務教育で習うことは、コミュニケーションや友達との関わり合いであり、社会に出てからの練習だと思っている。そういう面から見ても、北三瓶小・中学校と志学小・中学校の統合校の児童・生徒数が0～10人というところは、あまり現実的ではないと感じた。少人数の学校でも様々ないいことがあるということは確かにそうだと感じたが、大きな小学校に大人数いて、みんなで楽しいことや嬉しいこと、つらいことや悲しいことも含めて学ぶというのも、クラスが1学年に2～3クラスあるからこそという部分もあるのではないかと感じた。ただ、それがより良いという意味ではなくて、通学が大変というところもあるが、私は大きい学校に統合する方が現実的だと感じた。</p> <p>家庭によって大きい学校に行く、或いは北三瓶小学校・志学小学校などのような学校</p>

	に行くというのは、1年生になったときに選択できるものなのか教えていただきたい。
縄課長	<p>先程教育長の発言にもあったとおり、校区の基準を少し緩める、或いは選択できるようにするといったことで申し上げると、例えば三瓶地域に小規模特認校を作り、市内からそこを希望する人が通うことができる学校にするという選択肢はできるかと思う。</p> <p>一方で、例えば本来の校区の学校には馴染めないため隣接する学校に行きたいということであれば、校区の基準を緩めて、希望があれば通えるようにするなど、こういったことについて手立てを打ちながら、多様な学びが選択できるようなことを作り上げていければと思っている。</p>
委員長	<p>次回、三瓶地域の学校について、方向性をしっかり検討していくことになる。今日は素案もあるが、それ以外の案もあればぜひ出してもらいたい。</p>
委員	<p>新庁舎の関係で議論になったのは、“大田らしい”という言葉がたくさん出てくること。ただ、大田として、まちとして、どういうものが大田らしいかを明確に語れるのかと言うと、なかなか難しいというのがその委員会の中でも出てきた。大田市は他市と比べると、子育ての環境は昔から非常にいろんな補助が出てかなり充実しているということを、いくつかの委員が発言されたが、そういう意識があるのだろうか。今度子育てにかかる総合支援拠点ができるが、そういった部分でいくと本当に子育てのしやすい地域ではないかというような話があった。</p> <p>今回学びのイメージをお願いして作っていただいたが、これが議論の始まりだと思う。外から見ると我々からすると、大田らしいとは何かというと明確にわかりにくいというのがあり、どういうことかとずいぶん聞くが、なかなか整理ができていない。特徴を出すためには、自分たちのまちの教育を考え続けることが大切で、スタートだと思っている。</p> <p>それは庁舎も同じで、まちをどのように考えるのか。3月9日に山陰道が開通し、1年後には出雲まで繋がるとすると、ここが単なる通過の町になるのか、逆にここから教育分野などを充実させて、ここに住んでいただけるまちになるのか。教育委員会だけではなく大田全体で経済を考えていくことが必要。その中でやはり教育は非常に重要で、どう大田らしい教育をしていくかだと思う。</p> <p>こういうイメージを出してもらったので、ここから皆様の意見をいただきながら、大田市をどういうふう考えていくのか。しかし、一つ考えて決まるものではなく、時代によって変化するため、常に考え続ける必要があると思っている。そのため、今日の議論でもいろんな方の意見があって、いろんな多様な意見があって当然だと思う。大田らしい教育を突き詰めていくためにはどうするかをぜひ皆様に考えてほしいというのが私の意見である。</p>
縄課長	<p>先程の発言は非常に大切なことである。我々は今具体的な議論にも入っているが、その具体的な議論をする中でも、そうした視点は皆さんから様々なことを発言いただければ、実施計画の見直しの中に盛り込んでいけるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>私は大田らしいということをアドバルーン的に上げる必要はないと思っている。それは結果であって、一番大事なのは子どもが主体的に学ぶ力をつけること。学ぶことが楽しい、そして、自分が見つけた課題をさらに探求していくということ。今までの教育を反省しながら力をつけるという学校づくりの結果として、大田らしいことが学校のあり方で採用されていくのは後だと思う。</p> <p>大事なのは子ども。子どもが学ぶ楽しさを身に着ける、そのところを私達は見失ってはいけないと私は思う。</p>
委員	<p>私もまさにそうだと思っている。意欲があって、生涯学び続けることができる子ども。そういったことを考えて作り上げたものが、大田らしい教育システムや、教育の話題が</p>



	<p>あるというふうに結びついてほしいと思っている。</p> <p>やはり一番は子どもたちの学ぶ意欲や学ぶ姿勢、学び続けるといったことができる子どもを育てるとするのが一番の根幹だと思う。そのためにこうやって議論しながら、どういうふうに学びやすい、或いは多様な選択ができるような環境を作るか、それが他の地域ではない大田らしいという言葉になると思っているため、ぜひそういうふうに考えていただきたい。</p>
委員長	<p>それではこの後の第三中学校のこともについても検討いただきたいため、三瓶地域についてはここまでいただいた様々な意見を事務局で整理してもらい、次回事務局から方向性について示していただければと思う。</p>
(2) 第三中学校について (説明: 渡邊課長補佐、縄課長)	
議事に係る質疑応答	
発言者	内容
委員長	<p>私の方から事務局に確認である。三瓶地域の議論の中で通学手段の確保ということが出てきていたが、スクールバスまたは路線バスを活用して通学手段を確保するということは教育委員会として考えているということでもいいか。</p>
縄課長	<p>地域的に見るとスクールバスもしくは路線バスを活用するのが妥当な選択肢になると思っている。</p> <p>ただ、部活動の関係を中心に第三中学校区から半数を超える生徒が第一中学校に通学しているが、現在校区外就学における通学については自己負担であるため、大田市として支援はしてないというところをご理解いただきたい。</p>
森部長	<p>もう一点補足する。第三中学校区から校区外就学を希望する令和6年度の新入生の数もわかってきた。第三中学校区内の新入生が10人おり、そのうちの7人が第一中学校を希望されている。</p> <p>これまでも正当な理由があれば、教育委員会が校区外就学を認めるということであったので、次年度についても同様の対応をせざるを得ないと考えている。</p>
委員	<p>資料4の第三中学校を第一中学校へ統合した場合の部分、その中の期待できる教育効果というところに『部活動の選択肢が増える』とある。確かに部活の選択肢が多いのはそうだが、教職員の働き方改革において中学校の部活動が一番課題される中で、第一中学校に就学したときの効果として、学校の売りとして書かれるのはどうなのか。</p>
縄課長	<p>校区外就学の理由で一番多いのが部活動になっていることから、この記載をさせていただいたということで、それを学校の売りと言っているわけではなく、こういうこともあるという意味であったことはご理解いただきたい。</p>
委員	<p>資料4の中に『統合による生徒の負担感』ということについて記載があるが、第三中学校が大田西中学校に行く場合も、第一中学校に行く場合も、小学校の規模から言うと大田西中学校が小規模校なので負担感が少ないかということそうではない。この意味は、第三中学校から大田西中学校に移った場合というのか、どういうふうに捉えていいのかわからないが、小学校の子どもたちが中学校に行くときには、どこの学校も当然大きい規模になると思っており、負担感があるのは当然ではないだろうかと思っている。そのため大田西中学校は規模があまり変わらないから、負担感が少ないという言葉が本当に期待できるのかと疑問に思う。</p> <p>どちらの方がより望ましいかと考えた場合、校区外就学のことを見ても、それぞれの小学校の保護者の方や子どもたちが、第一中学校を希望しているところがこの資料から見ても多いのだとわかる。</p> <p>校区外就学を希望する生徒数から見ても、確かに大代地区から通うのは大変かもしれ</p>

	<p>ないが、小学校と中学校は違うと思うので、第三中学校をどこかに統合することを考えたときには、第一中学校の方が良いのではないかと感じている。</p>
森部長	<p>資料4の令和2年の部分を見ていただくと、第三中学校区内の生徒数がそれぞれ他の地域へ就学し、その学年で第三中学校に入学した生徒はゼロという状態になった。これは教育委員会が第三中学校を第一中学校へ統合するということを、当時開催していた検討委員会でお示しをしたことに影響するものである。このところは我々も反省をしなければいけないと思う。それ以降は第一中学校や、違う中学校へ行かれる方が5割以上となっている。</p> <p>一方で、先程課長が申し上げたように、校区外就学における経済負担を保護者にお願いしているということがあるが、地域の方々からはこういう状況であれば、教育委員会でけじめをつけていかないといけないという意見もある。統合となれば路線バスやスクールバスが使用できるということもあり、それは教育委員会の責任として対応ができるということである。</p> <p>ただ現在のところ自主的に他の学校へ行きたいという校区外就学については、教育委員会で支援できないという点があり、このところは地元からも考えてほしいという意見があったので、この場を借りて申し添えておく。</p>
委員長	<p>事務局からの説明や、前回の第三中学校についての資料を見ると、現状、或いは過去の経過、そういったこともある程度踏まえて検討していかないといけないと思っているところである。</p> <p>P T A関係の委員の方々で意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>大森小学校・高山小学校の子どもたちの中では、大体小学校5年生ぐらいから言い方は悪いが、まわりの子たちがどこの学校に進学するのかを子どもたちの中で探り始める。2校同士で児童との交流もあり、保護者間での話もできるので、もちろん明確な理由がある中での校区外就学だが、そういう中でどこの学校に行くかという話が出ていた。</p> <p>そのような中でなぜ第一中学校だったかという、先程から話が出ている通学の面である。大田市内で勤務されている保護者が多いため、みんなで乗り合わせての登校や、学校が終わった後は担当を決めて迎えに行き連れて帰ることが保護者の中で話が出ていた。大田西中学校ではなくて第一中学校に就学する生徒が多いのは、ほとんどが交通の利便性ではないかと思っている。</p> <p>そのため、通学の面がもう少し緩やかになり、スクールバスや路線バスを利用することが可能になったときには、大田西中学校になっても負担が少ないと思う。交通の便は家族も子どもたちもすごく時間を使うことになるので、大事なことだなと思っている。決して自己負担のことを言うつもりはないが、早く路線バスが使えるようになると嬉しいと思う。</p>
委員	<p>先程の三瓶地域の小・中学校の件もそうだが、遠い学校に通うと帰りが遅くなるというのが親として一番心配なところである。部活動をすると、冬場は17時半までとはいえども遅くなる。</p> <p>また、資料4の第三中学校が大田西中学校へ統合とあるが、留意点のところの『部活動の数も制限される』というところが私の中では引っかかった。例えば、第三中学校が第一中学校と統合した場合、大田西中学校単独での中学校となると、さらに生徒が少なくなり、さらに部活動の数も制限されると、それはまた大田西中学校は大変ではないかと感じた。</p> <p>また、校区外就学における通学に関して、市の補助がないということは全く知らないことだったので、そこはもう少し市からも周知していただければ保護者も助かるので</p>

	はないかと思った。
委員長	<p>大森小学校と高山小学校の児童が交流しており、それが非常に子どもにとって良かったという発言があった。今後再編統合がどうなるかということがあるが、そのような交流活動は事前にしっかり行っておくことは非常に大事だと思った。</p> <p>残された時間がもう少しあるが、意見ある方がいいか。</p>
委員	<p>現在いくつかの素案があるが、今後出生数が150人を切るような状況になったとき、また10年後になると、基本的にはある程度クラス替えができる規模の学校というのは、大田市内全体に1校でいいのではないかと考えるところ、小学校では多様な学びということで、ある程度クラス替えができるぐらいの規模と、多様な学びをできるような環境というような考え方があがるが、中学校にはそのような考え方は導入されないのか。子ども同士の関係がうまくいかなかったので環境を変えることができるというような考え方もある。</p> <p>通学の件もあるのでこういうふうに分かれるが、この議論して、また5年後に議論しないといけないとなるならば、ある程度将来的なビジョンなどを踏まえて、小学校・中学校を多様な学びや、社会に出るための練習、或いは高校進学やその後に向けて自分を高めたいという思いを持って学べる環境をどう作るかというのを考える必要がある。部活の議論があったが、部活は地域に移行していくべきではないかと思う。これは高校もそういう段階に来ており、学校の教員がするのではなく、地域とどう結びついて、子どもを育てていくことや地域の活性化をしていくというステージにも入っていこうとしている。そのあたりを踏まえながら、小学校と違うスタンスで議論されているというところがあるためお尋ねしたい。</p>
森部長	<p>皆さんの意見がどうしても部活動や通学の話になるが、基本的な考え方というのは、小学校と中学校では変わらないと思う。その上で150人の出生数であれば、市内に1校でいいという考え方もあり、これは常々私もいろんな説明会で言っている。</p> <p>ただ、そういう数合わせだけでいいのかということが今回の検討委員会だと思う。150人になるから1校でいいということではいけないので、様々に意見をいただきたいと思っている。</p> <p>その中で視点という話も出ている。どの視点を持って正解と成すかというのはないと思っている。出生数が150人を切るという時代が数年後になると、毎月行っている議論や結果が、1年2年でまた考え直さないといけないというようなことがある。そういう中で本当に一定の数が必要なのか、或いは小規模もある程度残していくのか、そういうことも視点としては必要である。</p> <p>現在でいうと、教職員の数が一番の問題として上がってきている。冒頭から課長が学習指導要領のことについてお伝えしているが、その学習指導要領が以前のような教え方ではいけないということで、授業改善等を各学校の先生方は取り組んでおられる。しかし、それも研修の場に出ることでより改善に取り組めるところもあるが、小規模の学校は研修に出れば学校に残る職員の数が少なくなってしまうので、その研修に出ることさえも難しい。そうすると、本当に学習指導要領に沿った授業というのを出来かねないという事態もある。ある程度の規模の学校というのは研修出やすいという視点はあるだろうと思っている。</p> <p>それから通学のことである。通学に時間をかけても、子どもたちにばかり負担がかかる。また、両睨みしていかないといけないのは財政の問題。小・中学校21校は日々施設や設備が劣化していく状況である。それに全て対応できているならここで声を大にして言っていないかもしれないが、対応できないことがすごく多い。子どもたちにとって</p>

	<p>安全な学習環境となっているかどうかというのは大きいところだなと思う。また、財政面から見るとICTの活用についても、すべての学校に数多くの機器を配備できればいいのだが、それが集約できれば、もっと有効に財源を配分できるという視点もある。これらのことや皆様からいただいた意見を総合的に勘案しながら、次の会議には事務局案としての文言も提出したいと思っている。</p> <p>三瓶地域の学校再編は早くても令和9年、一番遅いのは令和16年という案である。そのあたりも先を睨んだことではあるが、次回は、いつまでにどうするかという具体的な案をお示ししたいと思う。攻めたような感じで大変申し訳ないが、ご理解を賜ればと思う。</p>
委員長	<p>次回、方向性について事務局案が提出されるという話だが、三瓶地域のときは隣接校であり、9年間を通じた教育が進められているということで、小・中学校がセットで話が出た。今回第三中学校の議論の中で大森小学校や高山小学校の話は出てきていないが、次回はそれも検討すると思っていかが。</p>
縄課長	<p>資料2で説明させていただいた部分にある。次回は大きく第三中学校に関連するので、大森小学校・高山小学校のことについても議題として挙げさせていただきたい。</p>
委員	<p>ある程度の学校規模の下で学校生活を送ってきた経験がある委員の皆さんが多いと思う。自分の学校生活の経験を基にして、どうしてもそこに引きずられて物事を考えてしまう。新たな学校のあり方を考えようとするときに、今注目されている映画がある。『夢見る小学校』という映画で、全国展開をしているようである。その映画は“きのくにこどもの村学園”という学校のドキュメンタリーで、現在の日本の子供たちの現状の中で、どういう学びがいいのかということを中心に前から実践している学校である。私たちの中でもこのような教育があることを学んでおかないと、イメージが膨らまない気がする。</p> <p>そこで要望だが、“きのくにこどもの村学園”などの資料があれば事務局で準備していただきたい。とても勉強になって、議論のプラスになるのではないかと思っている。</p>
委員	<p>先程の発言に加えて、県立大学は大森地区で様々な活動をされており、なぜ大森で特徴のある教育ができるのかということを中心に卒業研究をまとめられている方もおられるようである。テレビでも放送されているという話も聞いたが、様々な視点で大森の教育や大田の教育を見ておられるので、そういったものがあると非常にイメージが湧くのではないかと思う。</p> <p>学力の3要素や、ある程度の規模の方が子どもたちの力を高めることができるのか、少人数でも十分にそれだけの力を蓄えることができるのか、そのような議論がもう少しあると本当はいいのかもしれない。</p> <p>現在の島根県内の高校生の学力は全国と勝負ができるのか、希望の大学に行けるのか、あるいは希望の高校に行けるのかという問題もある。島根県の場合だが、高校の倍率が0.83倍と、1倍を切っている。このような競争原理が働いていない現状の中で、大学は県外の人たちと勝負できるようになるのだろうか。国際的になったとき、日本はどうかという議論もなる。単なる学力というか、ペーパーでの記憶ではなく、本当にやらなければいけないのは、一人ひとりが自分の意見を持って学び続ける、考え続けることができる子どもをしっかりと育てることが大事である。そういったところをどういうふうにするのか。ヒントは地元にあるのかもしれない。そのためそういった卒業研究なども一つの参考資料かと思う。</p>
縄課長	<p>可能な限り資料はお示しをさせていただきたいので、次回までに揃えようと思う。</p>
委員長	<p>それでは次回第三中学校については、事務局から方向性を示していただくということで、今日の議事2点目をここで終了する。</p>

6. その他（説明：縄課長）

●次回開催予定日の確認

日時：3月26日（火）

場所：大田市民センター集会室

7. 閉会

●教育長挨拶

本検討委員会は5回目になる。これまでは委員の皆様から受けた質問に対して、こちらが一方的に答える形が多かったと思うが、今回はそれぞれ委員の皆様の具体的なお考えや、実態、そして保護者としての心情のようなものもここで交わしていただき大変ありがたく思った次第である。次回は年度末になるが、今日いただいた宿題の資料を準備することとあわせて、この今日の議題2点について方向性を示し、それを検討いただけたらと思っている。

なお、こちらの気持ち、思いを十分お伝えしなければいけない資料において、不適切な言葉の使い方もあった。心よりお詫び申し上げます。

以上をもって、第5回検討委員会を終了した。